

赤ちゃんの肌のトラブル ビジュアル版

[参考書籍:赤ちゃんと子どもの医学事典 梧桐書院]

乳児湿疹



「乳児湿疹」は乳児期(満1歳)に出現する発疹の総称で、原因が分からない場合に付けられる病名である。

【症状】生後1カ月頃から頭や顔、耳のうしろから胸や背中に湿疹ができ、水をもったりただれたり、カサブタのようになることもある。かゆみのために、顔をこすったり、寝付きが悪く、ぐずったりする。

【予防】普段のスキンケアが必要。

【受診】アトピー性皮膚炎の可能性もあるので受診を。

乳児脂漏性湿疹



まゆげあたりや小鼻の横にも脂がいっぱい。

【症状】生後1カ月から4カ月頃、皮脂腺の多いところについていたフケのようなものが、やがて黄色いカサブタになり、その下の皮膚が赤くなる。

【予防】清潔が第一。

【受診】カサブタが厚くなったら。

虫さされ



【症状】蛾、ブヨ、ダニにさされると赤くはれる。毛虫や毒蛾にかぶれると強いかゆみと赤くはれる。ハチにさされると赤くはれ、強い痛みがある。

【予防】網戸をしっかり閉め、洗濯物を取り込む時に虫がついていないかチェックする。

【受診】ハチにさされた場合はすぐに受診する。その他の場合は悪化しないうちに受診する。

あせもより



【症状】あせもをかきむしり、そこに菌が感染して化膿したものを言う。とても痛く、ひどくなると熱が出たり、リンパ腺がはれたりする。

【予防】あせもをかきこわさないよう子どもの爪は短く切っておく。

【受診】熱が出たり、リンパ腺がはれるようなら受診する。

おむつかぶれ



医師の指示のおむつかぶれの薬でよくなる場合「皮膚カンジタ症」の場合もある。

【症状】尿や便の刺激、尿の中のアンモニア、汗、むれ、まさつ、洗剤、刺激などが重なっておこり、皮膚が赤くただれる。さわると痛がる。

【予防】ぬるま湯やシャワーで石鹸できれいに洗い、乾燥させる。

【受診】なかなか直らない場合は受診する。

小児ストロフルス



【症状】春から夏にかけて多く発生。手や足に蚊にさされた固い赤い斑ができ、次第に盛り上がり、水疱ができる。かゆみが強い。虫さされの過敏反応による。

【予防】草原や夜など、虫にさされないように気を配る。

【受診】かゆみが強いので早めの受診を。

皮膚カンジタ症



【症状】お尻、わきの下、股にできる炎症で、「おむつかぶれ」によく似ている。赤い炎症の周りに、膿をもった赤いブツブツができる。又、オムツのあたっていない太もものシワの中にもできる。

【予防】「おむつかぶれ」と同様に清潔が第一で、十分に乾燥させることでカンジタ菌(カビの一種)の繁殖を防ぎます。

【受診】早めに受診を。